

諸井三郎 とらふ さんじろう 作曲家、音楽評論家。明治二十六年八月七日東京生れ、昭和五十二年二月二十四日歿（九〇一七七）。實業家諸井恒平の三男。昭和二年東京帝國大學文學部美術學科卒。在學中作曲團體スルヤキ主宰し、多くの室内楽曲、歌曲を發表。七年ドイツに留學。戦後は文部省視學官、教育音楽學會理事長、四十年東京都交響樂團團長、四十一年洗足學園大學教授等歴任。

著書『近代の起克』知的協力會議』（合著、昭和十八年七月二十日創元社）、『近代の起克』知的協力會議』（合著、昭和十八年七月二十日創元社）、『音楽と思想』（昭和二十一年八月二十日生活社）『日本叢書』（）、『ロマン派音楽の潮流』（昭和二十五年四月五日文藝春秋新社。再刊、二十七年九月二十日創元社）『創元文庫』（）、『音楽入門』（昭和二十六年一月二十日弘文堂）『アテネ文庫』（）、『音楽論ノート』（昭和二十一年一月二十日角川書店）『角川文庫』（）、『西洋音楽入門』（合著・河上徹太郎編、昭和二十年九月二十日京都・人文書院）、『音楽』（昭和二十一年五月十五日近代生活社）『芸術教育叢書』（）、『ベートーヴェン』不滅の芸術と樂聖の生涯』（昭和五十七年八月二十五日

新潮社「新潮文庫」）等。

